

## 天声人語

その文を打ち込んだとき、どんな絶望が彼女を覆っていたのか。青森市で先週、電車にはねられて亡くなった中学2年の女子生徒のスマホには「ストレスでもう生きていけそうにないですよ」との言葉があった。中学校でいじめを受けていたという▼「みんなに迷惑かけるし、悲しむ人も居ないかも知れないくらい生きる価値本當にないし、綺麗な死に方すらできないけど、楽しい時もありました。本当に13年間ありがとうございました」。つらいが、あえて引用しました。本当に13年間ありがとうございました。徒がいじめを訴えるメモを残し、自ら命を絶った。あつてはならないことが続いてしまった。18歳以下の子どもの自殺は長期の休み明けの前後に多く、とりわけ青森県では19日にも中学1年の男子生徒がいじめを集中している。見えない重荷を背負った子がないか、心を配りたいとおもいます。

▼「状況は厳しいかもしれない。でも、永遠には続かない」。作家の石田衣良さんが2006年の本紙に寄せた訴えを読み返したい。「死んだふりをして、苦しい時間を生きのびてください。そして、いつか笑いながら光のなかを歩いてください」▼つらい「いま」は、いつまでも続かない。同時に、「ここ」にも縛られなくていい。図書館、フリースクールなど。いまある関係から離れることのできる場所はある▼学校になんて通わなくていい。そういうのは簡単だが、子どもにとっては大変な勇気がいるかもしれない。見守る、耳を傾ける。発信されないままの言葉を少しでもすくえれば。

2016・8・31